

## 第 39 号

編集・発行

富山県障害者社会参加推進センター  
〒930-0094 富山市安住町5-21  
富山県総合福祉会館(サンシップとやま)3階  
Tel(076)444-0213 Fax(076)433-4610  
E-mail  
fjp25520@nifty.com  
ホームページ  
https://www.toyamashin.jp/

# 富山県障害者社会参加 推進センターだより

## 令和6年度第27回 障害者相談員活動強化研修会開催

今年度は7月11日(木)～12日(金)一泊二日で、春日温泉ゆくとりあ越中にて開催し、初日は相談員他74名、2日目は65名参加しました。

初日の開会式には、始めに布尾英二会長より開会の挨拶があり、その後来賓として富山県厚生部障害福祉課河尻茂明課長と富山県社会福祉協議会高畑淳一専務理事より、連帯と激励の言葉を頂き早速講演に入りました。

### 講演1

初日の11日は、「防災対策」について、講師として富山県危機管理局防災・危機管理課地域防災担当小幡康義係長より令和6年度能登半島地震を踏まえて「地震に対する備えと自主防災について」と題して、令和6年能登半島地震の概況・富山県の地震・津波のリスク・自助・共助による地域防災力等について講演していただきました。

まず、日頃の備えとして、タンス・本棚・テレビ・パソコン・食器棚・冷蔵庫等の転倒防止策を検討することから始めてみましょう。災害発生直後は、救援物資が十分に行きわたらない場合があります。非常食や飲料水などは、最低3日間(推奨1週間分)を



氷見市姿地区建物崩壊

家庭で備蓄しておくようにしましょう。また、眼鏡・ルーペ・お薬・お薬手帳・障害者手帳など、必要なものは人それぞれです。保管場所など常に把握しておきましょう。

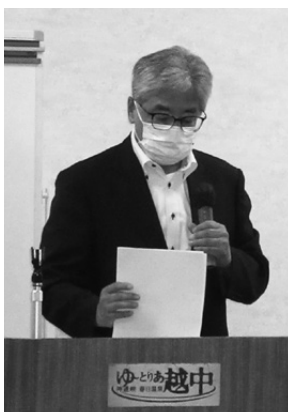
なお、避難行動要支援者等に対するサポート制度として、国では、避難行動要支援者(高齢者や障害のある方などの自力での避難が困難な方)について避難支援等をするための個別避難計画を作成することになっていきます。

個別避難計画とは、風水害や地震が発生した時に、「誰と」「どこへ」「どのように」避難するかを事前に決めておくことで、いざという時に備えるものです。個別避難計画を策定することで、より具体的な避難のイメージを地域で共有し、地域の防災力向上につなげていくことが大切です。

「いかに危険性を正しく理解し、備えるか」そのためのリスクの把握と、日頃からの備えをしましょう。

### 講演2

二日目の12日には、高齢化・核家族化が進む現在、誰もが迎える終末まで、如何に豊かに過ごすかを考えるために、今回、富山県金融広報アドバイザー・



ファイナンシャルプランナー上田亨様をお招きし、「終活とエンディングノートについて」の講演をしていただきました。

① 終活とは

◇簡単に言うと、それぞれの人生で、残された時間を、いかに禍根を残さず、有意義に過ごすことができるかを考えることです。

② エンディングノートとは

◇終活で考えたすべてについて、将来、自分に万一のことがあった時に備えて、家族や周りの人に伝えておきたいことをあらかじめ記入しておくノートで、ノートの種類は特に定められたものではなく自由ですが、市販のものは項目別となっており書き易いとのことで、皆さんも時間を作って書いてみてはいかがでしょうか。

障害者陶芸教室開催

今年度の陶芸教室は、県東部は7月18日(木)参加者18名、また、県西部は7月25日(木)15名参加して射水市匠の里において開催しました。

当日は、初めての方もおられたため講師の丁寧な説明を聞いた後、花瓶や皿などの制作を行いました。今回制作した作品は、各圏域で開催される地域障害者作品展で展示されます。



● 今後の事業計画

- 8月21日 ワークショップ  
「ほんわかアート教室」
- 県東部(大久保ふれあいセンター)
- 8月28日 ワークショップ  
「ほんわかアート教室」
- 県西部(砺波市苗加苑)
- 9月7日 結婚相談事業  
「出会いと語らいの集い」  
(婦中町やまふじぶどう園)
- 9月14日～16日 地域障害者作品展  
高岡圏域(高岡市ふれあい福祉センター)
- 10月4日～6日 第30回富山県障害者絵画展  
(アピアシヨッピングセンター)
- 10月12日～14日 地域障害者作品展  
富山圏域(アピアシヨッピングセンター)
- 10月25日～27日 地域障害者作品展  
新川圏域(つるぎふれあい館)
- 11月6日～7日 地域障害者作品展  
砺波圏域(小矢部市役所)
- 12月3日～9日 障害者週間



● 身体障害者のひろば

今年度、富山県身体障害者福祉協会では、コロナ感染症も2類から5類になり、以下の事業を実施しました。

● 第34回福祉セミナー開催

4月4日～5日に「ゆくとりあ越中」において、初日は日帰りを含め会員55名、二日目は27名が参加し開催しました。

初日の4日は、初めに講義(1)として、富山市民病院より認知症看護認定看護師の高柳佳忠講師より「認知症になったらどうなるの」という題目で研修しました。

家族が、本人が、どのような経過をたどるのか、どのような関わり方がよいのか、認知症は脳のどの部分に原因があるのかによって症状が違うので、症状に合った対応が必要とのことなど専門家の立場からお話がありました。

また、講義(2)は消費生活出前講座として「高齢者の消費者トラブルとその対処法」について、富山県消費生活推進リーダーの本村典子講師より、特殊詐欺・悪質商法の被害に遭わないためにはどう



すればいいかについてのお話がありました。特に気をつけていただきたいのは、被害に遭われる方の約70%が高齢の女性の方だそうです。

そのような電話や訪問販売の話があれば、その場ではつきりと断ることが一番であるが、断ることができないときは、家族や友人または消費生活センター（直接電話188番）か警察に相談してから返事をすると言って、その場での契約はしないようにとのことでした。

また、2日目は、従来福祉施設などを見学していましたがコロナ感染予防のため見学できず、富山県庁と令和4年に完成した「富山県防災危機管理センター」の視察をしてきました。

この富山県防災危機管理センターでは、1月1日に発生した「能登半島地震」の対応方針などの検討に利用されています。

●令和6年度 山岳歩行訓練会開催



快晴の雪の大谷散策

今年は5月14日～15日に立山室堂 雪の大谷ウォークとして、会員スタッフを含め総勢30名参加して開催しました。

初日は、リニューアルした「立山博物館」の見学を行い、2日目に協会として2年振りに立山室堂「雪の大谷ウォーク」を実施しました。当日は、天候にも恵まれましたが、コロナ感染症が2類から5類になったため外国人の旅行者がコロナ感染症前に戻っており、大変混雑していました。

●第26回フライングディスク競技会開催

6月27日、第26回フライングディスク競技会を富山市の体育文化センターにおいて、コロナ禍前のルールで団体戦・ペア戦及び個人戦で開催しました。

当日は、障害者フライングディスク協会より3名の主審の協力を得てスタッフを含め総勢65名参加し、日頃の練習成果を発揮された方、発揮できなかった方もおられ、和気あいあいと楽しい1日を過ごしました。また、団体優勝については、氷見市Aチームが35点を獲得し2年連続優勝を成し遂げられました。



フライングディスク競技会

●令和6年度 第1回りハビリ教室開催

令和6年度第1回りハビリ教室は、昨年同様九殿浜温泉「ひみのはな」で総勢23名が参加し、6月19日～21日の二泊三日で温泉療養を兼ね開催しました。

2日目の20日には、天候にも恵まれ午前中は近くにありながら、最近見たことが無いと言われる「高岡市万葉博物館」と「高岡大仏」を見学するとともに、午後からは砺波市にある「コカ・コーラ 砺波工場」の見学と「コーヒークラス」を利用したランプ作りを体験してきました。



高岡大仏前にて



ランプ作り

〈ランプ作り手順〉

1. コーヒークラスを紙粘土に練りこみます。
  2. プラスチック透明コップに塗り付け、好きなデザインに型抜きします。
  3. LEDライトで照らして完成です。
- このコーヒークラスのランプは、消臭効果と防虫効果があるとのこと。



ランプの完成

●令和6年度障害者交通安全教室開催

リハビリ教室最終日の6月21日ひみのはなにおいて、令和6年度の障害者交通安全教室を開催しました。

講師は、富山県氷見警察署 地域交通課の田中企画送致係長より、最近の高齢者における交通事故で歩行中の事故が多く、特に夜間に発生しており、夜間の歩行については反射材を付けるようにしてほしいとのことなど、交通事故に遭わないための5項目について説明がありました。

また、今回、氷見市で交通事故防止に取り組んでいる「あねはん劇団」の方々5名に参加いただき、横断歩道のない道路を渡る時などの注意事項を、寸劇を交えて面白可笑しく紹介されました。



「あねはん劇団」の皆さん

●平成6年度青年部

ガラス作品制作体験教室開催

7月4日午前東部、午後西部、5日午前東部の総勢26名によるガラス作品制作体験教室を開催しました。

6回目となる今年は、初めて持ち手付吹きガラス作品を思い思いに制作し、講師の指導を受けながら真剣に受講していました。



ゆっくり・ゆっくり・もつと強く



完成品

●今後の事業予定(9月1日現在)

●9月22日

富山県障害者スポーツ大会(FDの部)

(県総合運動公園)

●9月26日 カローリング競技会

(富山県総合体育センター)

●10月12日 第51回ボウリング大会

(富山地铁ゴールデンボウル)

●10月23日~25日 第2回リハビリ教室

(ひみのはな)

●10月31日

障害者女性健康指導教室(料理教室)

(黒部市・魚の駅「生地」コミュニティセンター)

●11月11日~12日

中部ブロック身体障害者相談員研修会

(福井市)

●11月30日

第37回富山県身体障害者福祉大会

(黒部市)

●12月26日

障害者女性健康指導教室

(フラワーアレンジメント教室)

(場所未定)

※今後の事業については、都合により変更する場合があります。

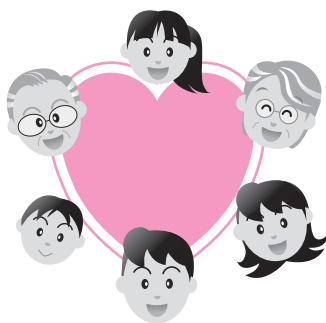
【お問い合わせ先】

一般社団法人富山県身体障害者福祉協会

富山市安住町5-21サンシップとやま3階

TEL (076) 432-6331

FAX (076) 433-4610



# 視覚障害者のひろば

社会福祉法人

富山県視覚障害者協会だより

## ● 図書製作ボランティアと利用者の交流

7月7日(日)、「令和6年度ボランティアと利用者交流会」が富山県視覚障害者福祉センターにて開催されました。この交流会は点字・録音図書製作やその利用の充実を図ることにより視覚障害者の福祉向上を目指す目的で実施されている事業です。

今回は令和元年以来の午前・午後開催となった昨年度からさらに「午後の部」・外部施設での交流」が復活し、点訳・音訳ボランティア8グループ38名と利用者18名、付添者を含む合計61名が参加しました。

意見交換は点訳と音訳各グループに分かれて、質問や意見等の事前調査を基に進められました。ボランティアからは、利用者に対して日々活動するうえで参考となる意見を求めたりPRがあったりしたほか、他グループへの質問も多く出されています。利用者からも具体的な回答や要



望、日頃の感謝の言葉等、全員から発言があるなど、いずれのグループも活発な分科会となりました。

ボランティアと利用者が直接ふれ合う午後の部では、令和元年度の富山市科学博物館以来、久しぶりのお出かけとなり、「水墨画美術館」でペア

やグループを組んで親交を深めました。各作品に関するボランティアからの熱心な説明ぶりや館内説明に対する利用者の関心の高さには美術館スタッフも驚きの様子でした。

視覚障害者の「情報障害」改善に貢献の大きいボランティアが一堂に会し、利用者との交流を図ることのできる機会はとても貴重です。今後皆さんの声を大切に企画していきたいと思えます。

## ● 令和6年度後期の

主な事業計画をお知らせします。

● 10月13日

第48回視覚障害者文化祭・福祉機器展

● 10月19・20日 石川県

第33回北信越サウンドテーブルテニス大会

● 11月10日

三療研修会



● 11月30・12月1日 新潟県  
第10回日視連北信越ブロック大会  
12月8日

更生相談会・結婚相談室

以上の事業の他、文化・スポーツ・家庭生活を支援する各種教室、点字・パソコン・歩行指導、点訳・音訳ボランティア養成・研修事業等、視覚障害者の社会参加促進活動を通して実施しています。

## 【お問い合わせ先】

〒930-0077

富山市磯部町3丁目8番8号

TEL (076) 425-6761

(福)富山県視覚障害者協会事務局まで



聴覚障害者のひろば

● 射水の地でろう太鼓が響く

第35回富山県ろうあ者大会開催される！

6月30日(日)に35回目の富山県ろうあ者大会が射水市聴覚障害者協会主管で行われ、射水市のアイザック小杉文化ホール「ラポール」に280名が集まりました。式典では夏野元志射水市長本人が手話を交えて挨拶をして頂きました。本会理事長を18年間務め昨年で退任された石倉義則氏ら4人の功労者に表彰状が贈られました。議事で、会務報告では、優生保護法問題や難聴児支援等に対する取り組みを報告。大会宣言や大会決議とともに満場一致で承認されました。



アトラクションでは新潟ろうあ万代太鼓「豊龍会」による講演と和太鼓演奏。講演では「ろう者」と太鼓43年のあゆみ」をテーマに、耳が聞こえなくても和太鼓はできるという考えのもと、活動を始めた経緯、継続することを大事にしている現在の活動についてお話されました。ろう者が中心となっている和太鼓団体は全国で50以上ありますが、ろう者だけで構成されるのは豊龍会だけだという話でした。講演

の後はメンバー7名による和太鼓演奏が披露されました。配付された風船を膨らませ、お腹で抱くように持つと、聞こえなくても太鼓の振動が伝わって楽しめました。

来年は新川ろう連合会主管で、魚津市の新川文化ホールで行う予定です。

● 環水公園、県美術館等にブルーライトアップを行い、手話言語をアピールします！

9月23日「手話言語の国際デー」イベントのお知らせ！  
毎年9月23日「手話言語の国際デー」に合わせて、世界ろう連盟は、世界の国々でランドマーク、公共施設等の建物にブルー(青色)でライトアップするように呼びかけています。

富山県においても、去年に引き続き、県の協力を得て、富岩運河環水公園、県美術館、海王丸パークなどの県の公共施設へのライトアップを計画しています。ぜひ見に来てください。



● 第36回全国ろうあ高齢者大会は富山市へ500名を超える参加者が結集！

全国ろうあ高齢者大会は、9月26日(木)の4日間、下記の日程及び会場で本会が

主管として開催します。

26日(木)全日本ろうあ連盟高齢部全国代議員会

富山県聴覚障害者センター

27日(金)講演会

オーバード・ホール中ホール

懇親会

オークスカナルパークホテル富山

28日(土)大会式典・スポーツ大会開会式

オーバード・ホール中ホール

29日(日)ゲートボール競技大会

県五福公園 五福陸上競技場

グラウンド・ゴルフ大会

県五福公園 県営富山野球場

目標の500名を超える約560名の申し込みがありました。大会実行委員会は、大会の成功に向けて、寄付・プログラム誌掲載広告料を集め、グッズ販売も頑張っています。ゲートボール競技大会、グラウンド・ゴルフ大会もそれぞれ競技団体との協力をいただきながら着々と準備を進めています。

【お問い合わせ先】

社会福祉法人富山県聴覚障害者協会

富山市木場町2-21

TEL (076) 441-7331

FAX (076) 441-7305

メール info@tomichokyo.or.jp

ホームページ

http://www.tomichokyo.or.jp/index.html

知的障害者のひろば

富山県手をつなぐ育成会

◆ 親から地域社会へのバトンタッチ

～松の木プロジェクト～

冊子「まっちゃん社会自立をめざす対話集」が完成しました！

育成会では、成人した障害のある本人たちが地域で安心して生きていけるよう、「親から地域社会へのバトンタッチ」を合い言葉に、仲間同士での勉強会に取り組み、漠然とした親なき後の不安を具体化し、将来に向けてどんな準備が必要か、どのような行動をすれば良いのか共に考えてきました。

仲間同士での勉強会で気づいたのは、子育ての目標は「子どもの社会自立」であること、もう一つは、問題が多発しがちな「学齢期から成人期への移行」や「親の高齢化」の時期だけではなく、様々な年代において、親も子も多くは壁にぶつかることでした。

そこで私たちは、知的な障害のある子どもを持つ親たちが、これまで出会い、悩んできた経験を集め、次に続く親たちに向けた「事例集」を作りました。

成人前、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代と子どもの年代別に、グループワークを通して親たちが話し合い、仲間たちと共有したい典型的な事例をあげました。

その年代の子を持つ親が、少し年代が上の先輩保護者に相談を持ちかける「対話方式」の事例集となつていきますので、どなたにも手に取りやすく、親しみやすいものになっていきます。

冊子では、現在抱えている悩み、将来に向けた悩み、誰もが経験するであろう、障害のある人や、親たちの悩みの全容が分かります。まずは、親が将来の「子どもの社会自立」を考える際の材料になります。

特に、若い世代の親が、将来に向けての設計をたて、今後起きる問題への対処法を考える参考になります。

一人で悩みを抱えている人に対しては、孤立せず、仲間と共に考え行動することの大切さを伝え、仲間づくりへの誘い水となります。親の悩みや体験を分かち合うことで、きょうだいや親族にとっても、将来を考えるきっかけになることが期待されます。

そして、「親から地域社会へのバトンタッチ」、「子どもの社会自立」のためには、何よりも受け皿となる地域社会の理解が不可欠です。親や子が、地域で暮らすにあたり何を不安



年代別に仲間同士で内容を考えました

に思っているのか、何に悩み、どこに悩まずくのかを、この事例集を通して知ってもらい、地域で障害者を見守る理解者が広がっていくことを願っています。

この冊子は、仲間同士の叡智を集めた一冊です。

私たち育成会では、自信をもってこの冊子を活用し、障害のある人への理解の輪が広がり、誰もが安心して暮らせる共生社会づくりに取り組んでいきたいと考えています。

【お問い合わせ先】

一般社団法人 富山県手をつなぐ育成会

〒930-0094

富山市安住町5番21号

TEL (076) 441-7161

メール [toikusei@minos.ocn.ne.jp](mailto:toikusei@minos.ocn.ne.jp)

ホームページ <http://toyamakusei.jp/>

フェイスブック

<https://www.facebook.com/toyamakuseikai/>



## 精神障害者のひろば

### JRが精神障害者運賃割引導入へ

十年に及ぶ、障害を持つ当事者、家族会、みんなねつとの交通運賃割引実現運動が実りました。粘り強く取り組んできた成果です。みんなねつとの岡田久実子理事長は「運賃割引の実現は、所得保障観点からだけでなく、精神障がい者のみが制度から除かれている状態が自分たちの存在が否定されており、尊厳をも踏みにじること、偏見差別を助長することにもなる」と訴えてきました。

割引制度は来年4月1日から実施されます。割引制度の条件

今、割引制度の条件をめぐる議論されています。

(1)手帳に第1種または第2種の記載がある方のみが対象

自治体で発行する精神障害者保健福祉手帳にはすでに1級から3級までの区分があります。新たに、旅客鉄道株式会社旅客運賃減額欄が作られ第1種または第2種の記載される予定とのことです。種別をどのように記載されるか現時点で決まっています。

(2)第1種精神障害者+介護者で5割引がされます。介護者同伴が条件です。1人だけでは割引がありません。ネットにリポートがありました「私は公共交通機関の運

賃割引が適用される第一種の身体障害者です。運賃の割引が適用される障害者用ICカードの利用が始まったので、買いに行ったら駅員に断られ、買えなかったのです。さらには障害者一人での利用はできないと言われました。納得できません」とあります。Suica・PASMOの障害者用ICカードは「障」マークと「介」マークの入ったカードをセットで購入、同伴乗車が条件です。

(3)1人での利用の場合第1種第2種ともに100km超の場合で普通乗車券に割引が適用されます。

JRはおよそ七〇年前の旧国鉄時代の障害者割引制度をそのまま現在でも運用しているのです。現在、車椅子に頼る障害者のため、多くの鉄道事業者は、乗車駅、降車駅でそれぞれ駅員がスロープ介助を行っています。一人旅も可能になりつつある時代、介護者同伴条件は必要とは思われません。また、割引の負担は国も加わるべきという考えも根底にあるようです。

みんなねつとでは「今後、各社とも障害種別を超えて、100km以下の同伴条件も廃止し、全ての手帳所持者(等級にかかわらず)が割引の対象となる制度に改善を求めます。また、鉄道以外の公共交通運賃(高速道路など)も引き続き割引実現を求めていきます。」としています。

地元富山では

富山県内をつなぐ生活路線あいの風とやま鉄道は発足当初から手帳の提示で、本人単独利用の運賃が5割引となります。そのほか富山地方鉄道富山ライトレール、万葉線、加越能鉄道も同様、運賃が割引になります。IRいしかわ鉄道にもそのままつながります。

県外への旅は、高速バスの利用が人気で、ネットで購入を割引購入(障害者割引)し、出発時に障害者手帳提示でOKとなっています。

しかし、精神障害者は対象となっておらず、このような精神障害者のみを除く制度は、当事者の尊厳を踏みにじり、偏見差別を助長することにもなり、大変残念なことです。

#### 【お問い合わせ先】

特定非営利活動法人

富山県精神保健福祉家族連合会

事務局 〒930-0085

富山市丸の内2-3-8 桜井ビル3F

TEL・FAX (076) 461-7110

